

角川書店より 10月新刊 ノンフィクション単行本のお知らせ 1/2

いつもお世話になっております。角川書店のオススメノンフィクション単行本をご案内致します。

ぜひ、著者インタビューや書評、読者プレゼントなどでの掲載をご検討頂けますと幸いです。

お問い合わせ等がございましたら、下記担当者までお願い申し上げます。

株式会社KADOKAWA 角川書店 ブランドカンパニー パブリシティ室:佐々木 愛(sasaki-a@kadokawa.jp)

〒102-8078 東京都千代田区富士見1-8-19 TEL:03-3238-8555 FAX:03-3262-7646

国民的英雄「アンパンマン」はここから生まれた——
正義と自己犠牲を貫いた大正生まれの男たちの物語

慟哭の海峡

門田隆将・著



発売予定日:2014年10月10日(金)

頁予定数:336頁 価格:1,600円+税 体裁:四六判上製

作品公式HP: <http://www.kadokawa.co.jp/sp/2014/dokokunokaikyo/>

やなせたかし氏は2013年10月13日にご逝去され、本作のもう一人の主人公、柳瀬千尋さんと戦時中共に戦った中嶋秀次さんは2013年10月20日にご逝去され、お二方共に、今年で1周年になります。

十万人を超える日本軍兵士たちが犠牲になったとも言われる「バシー海峡」その犠牲者の一人に、「アンパンマン」の作者である、やなせたかしの弟がいた——。

<内容>

太平洋戦争中、“輸送船の墓場”と称され、10万を超える日本兵が犠牲になったとされる台湾とフィリピンの間の「バシー海峡」。アンパンマンの作者である、やなせたかしの弟もその一人だ。その“魔の海峡”から12日間の漂流を経て奇跡の生還を遂げた若者がいた(中嶋秀次)。彼は死んだ戦友の鎮魂のために戦後の人生を捧げ、海峡が見える丘に長い歳月の末に、ある寺院を建てた(潮音寺)。2013年10月、やなせたかしとその人物は、奇しくもほぼ同時期に息を引き取った。「生」と「死」の狭間で揺れ、自己犠牲を貫いた大正生まれの男たち。今、明かされる運命の物語とは——。

<著者紹介>門田隆将(かどた・りゅうしょう)

1958年(昭和33年)、高知県生まれ。中央大学法学部卒。ノンフィクション作家として、政治、経済、司法、事件、歴史、スポーツなど幅広い分野で活躍。『この命、義に捧ぐ 台湾を救った陸軍中将根本博の奇跡』(角川文庫)で第19回山本七平賞受賞。主な著書に『甲子園への遺言 伝説の打撃コーチ高島導宏の生涯』(講談社文庫)、『なぜ君は絶望と闘えたのか 本村洋の3300日』(新潮文庫)、『太平洋戦争 最後の証言』(第一部～第三部・小学館)、『死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発の五〇〇日』(PHP研究所)、『狼の牙を折れ 史上最大の爆破テロに挑んだ警視庁公安部』(小学館)、『記者たちは海に向かった津波と放射能と福島民友新聞』(角川書店)などがある。



①およそ70年前、あまたの日本兵の遺体が流れ着いた海岸線と猫鼻頭岬。向こうに見えるのがバシー海峡



②バシー海峡を望む丘に建つ「潮音寺」



②昭和16年12月、太平洋戦争開戦の頃、京都土佐塾の面々（後列右端から1人おいて柳瀬千尋さん）（提供・広井正浩氏）



③馬の銅像に跨って得意気な柳瀬千尋さん（写真のキャプションには、「柳瀬君の綽名は“馬”でありました」とある）（提供・広井正浩氏）

④中嶋秀次さん。亡くなる1か月前、戦友の慰霊に生涯を捧げた中嶋秀次さんは最期の証言をおこなった

